

第13回「東海財界倶楽部」例会 鈴木正俊氏を招いて開催

平成二十八年四月二十日、「東海財界倶楽部例会」が開催された。同会は東海地方で活躍する経営者を中心とした異業種交流会。当日は東海地区信用金庫協会鈴木正俊専務理事を講師に招いて実施。親睦会などが行われた。

四月二十日十八時三十分からホテルオークラレストラン「光の間」において、「第一三回東海財界倶楽部例会」が行われた。当日は正会員・準会員を含め中部地区で活

躍する経営者ら約三〇名が出席。第一部では、東海地区信用金庫協会鈴木正俊専務理事（前北海道財務局長）による「アベノミクスの行方」と題する講演が行われた。



講演する鈴木正俊氏

アベノミクスがスタートした際に政府が掲げていた「三本の矢」。その一つ一つをこれまで経験してきた鈴木氏の様々な立場からの視点から分析。また、「二%の物価安定目標」については、「消費者物価は質的・量的緩和によつて、エネルギーと生鮮食品を除いた指数で一・三%という数字になりました。私が疑問

に思うのはどうしても二%にする必要があるのかという点です。現在の一・三%程度で十分ではないか。エネルギーが低いというのは、日本にとっては利点がある。このような状況でなぜマイナス金利を導入したかが疑問です。これ以上無理をしてまで二%という数字を求めるものではない」との指摘も。マイナス金利が各業界に与える影響にも触れ、最後は、自信の所属する信用金庫業界のあり方で話を終えた。

講演後、休憩を挟み第二部である懇親会へ。ホクセイ山下三男社長が乾杯の音頭をとり、愉快的な話が飛び交う会が始まった。

参加者それぞれが、料理やお酒を嗜みながら、第一部で気になった部分の詳細について質問していた。現在、日本が抱える経済の面を知る鈴木氏の話に会員一同耳を傾けていた。

次回の東海財界倶楽部例会は六月一日、東海財務局飯塚厚局長を招いての講演を行う予定。